

輪

新潟大学附属特別支援学校
学校便り 第496号
令和5年2月15日発行

同じ空間，同じ時間

校長 足田 敦士

大寒を過ぎた頃から、全国的に寒さが厳しさを増し、1月24日～26日は数十年に一度という最強寒波により、新潟県でも各地で記録的な最低気温となるなど、文字通り厳冬となりました。その影響から臨時休校もありましたが、子供たちは寒さに負けることなく、楽しみにしているすなやま祭に向けて、各学部とも毎日、体育館でのステージ練習に一生懸命取り組んでいました。

今年度は、人数制限こそ設けましたが、3年ぶりに全学部のお家の方々の前で、子供たちは1年間の学びの成果を生き生きと発表することができました。当日は、ステージで元気よくパフォーマンスをする子供たちや会場で参観された方々の笑い声を聞くたびに、同じ空間に集い同じ時間を共に過ごすことの素晴らしさを改めて感じました。

令和4年度の教育活動も残り少なくなり、各学部とも、最後のまとめと次の学年・学部に希望をもってつなげる大切な時期となりました。子供たちが、自分に適した目標をしっかりともち、活動を通して達成感や満足感を実感することができるように、一人一人の思いに寄り添った支援に努めてまいります。今後とも、変わらぬご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



中学部生徒会によるオープニング




小学部児童会 開会宣言
「すなやま祭 はじまり はじまり」



職員有志のダンス



高等部生徒会によるエンディング



各学部のパワー全開！ 一人一人が大活躍！

特別活動部主任 樋口 杏子

2年ぶりに対面形式での開催となった今年度のすなやま祭。保護者の皆様には、限られた席を譲り合って参観いただいたり、発表中の電気設備の不具合によりご心配をお掛けしたりしましたが、皆様のご理解とご協力のおかげで、無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

子供たちは、「お家の人に頑張ったことを見てもらおう！」「どうしたら観ている人たちに楽しんでもらえるかな」と、それぞれの学部の児童生徒会を中心に、相談や練習を重ねてきました。当日は、どの学部も練習の成果を堂々と発揮し、一人一人が1年間の学習の集大成となる姿を披露することができたのではないかと感じています。

保護者の皆様には、すなやま祭に関するアンケートにもご協力いただきました。皆様からの貴重なご意見、ご感想を来年度以降に活かしていきたいと思っております。大変ありがとうございました。

<各学部の発表の様子>

【小学部】


「たのしい すなやま祭 みんなで あそぼう！」

小学部は、生活単元学習「みんなでわっしょい！附属まつり」「オバケがいっぱい！附属やしき」、音楽の手話歌「明日は晴れる」の3つを発表しました。友達の名前を呼んだり、誘ったりして働き掛ける力、呼ばれたときに声やポーズで返事をしたり、誘いを受け入れたりして応じる力、友達と一緒に活動を楽しむ力を授業で育てられました。準備や練習を繰り返す中で、

子供たちのこうした力が確かなものになってきました。当日は、たくさんのお家の方々に見守られて、ドキドキわくわくが止まらなかった子供たちでしたが、どの子もこれまでに身に付けた力を生かし、自分らしく楽しく発表することができました。

(小学部2組担任 古泉 尚子)





【中学部】

「プロフェッショナル 作業の流儀 ～立ち止まるな 種(おもい)はいつか実る～」



中学部では、今年度の作業学習で取り組んできた「中学部ファームをつくろう！（農園づくり）」について発表を行いました。「柵」「足カバー」「ファームロード」「キラフレバッグ」の4つのグループに分かれ、自分たちがこれまで取り組んできたことについて、ファームに対する思いを添えながら発表を作り上げてきました。当日は、保護者の皆様を前に少し緊張しながらも、練習してきたことを堂々と披露することができ、全員が達成感を十分に味わうことができました。子供たちが発表する姿を通して、今年度の作業学習の成果を見ていただくことができたのではないかと思います。ご覧いただき、ありがとうございました。

(中学部2年担任 加藤 亮)


【高等部】

「キュンキュンさせちゃうKTB ～芸術でも憧れのあの人たち～」



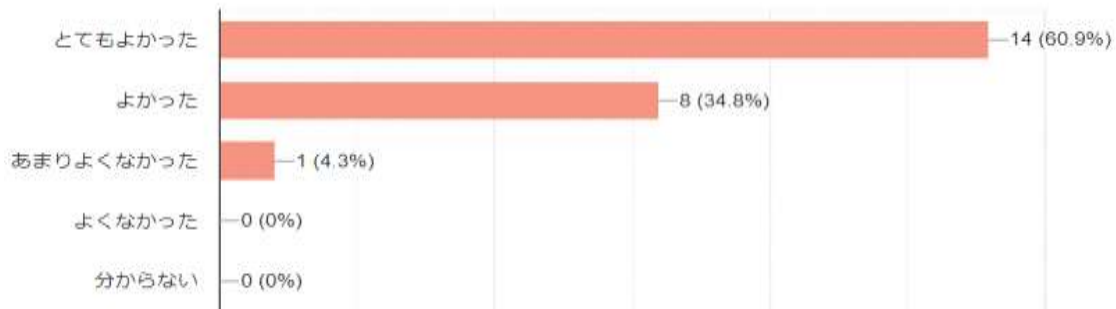
高等部では、今年度から新設された選択音楽・美術の学習の成果を発表しました。選択音楽では、ダンスグループとアカペラグループに分かれて、気持ちを合わせて発表しました。選択美術では、これまでの作品を紹介するクイズとリアルタイムでの共同制作に取り組みました。当日に向けて各グループでは、衣装やセリフなどを生徒たちが主体的に考えながら練習してきました。当日はこれまでの練習の成果を十分に発揮したステージとなりました。特に、フィナーレでは最後のすなやま祭となる3年生を中心に、高等部全員でダンスを発表しました。生徒が一体となり、一人一人笑顔あふれるすなやま祭となりました。

(高等部1年担任 市橋 利香)

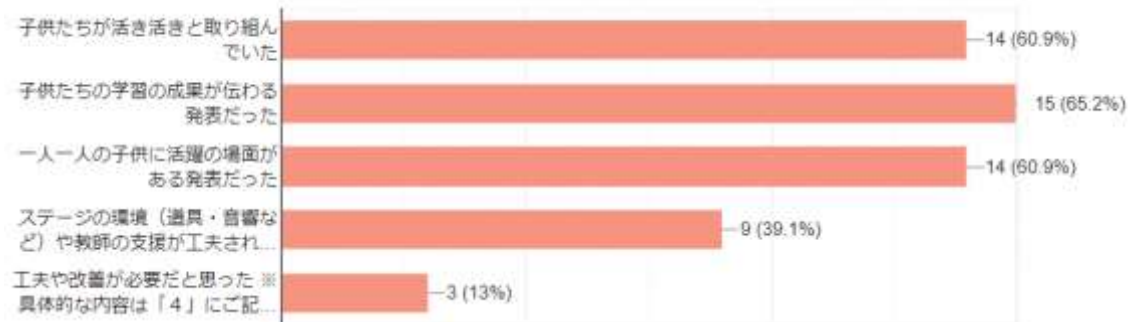


【すなやま祭 保護者アンケート集計結果】

◆ お子さんが所属する学部のステージ発表はいかがでしたか。



◆ ステージ発表について、当てはまると思うものを全て選んでください。



◆ご意見・ご感想 ※一部抜粋させていただきました。

- 子供たちの長所や得意分野を活かしたものでした。子供たちが自信を持って、生き生きと取り組む様子が見られました。良いすなやま祭でした。
- これからも生徒一人一人が『やりたい』を叶えられるイベントであることを願っています。
- 終始楽しそうに参加していたので、見ているこちら側も楽しかったです。
- 中学・高校と我が子の大きくなった姿を想像してみたり、開会式から校長先生や先生方にも笑わせて貰ったりと、とてもいい時間を過ごす事が出来ました。また来年にも期待です。
- プロジェクト型作業学習を通して、一人一人の挑戦する姿と学部全体との繋がりを発表からも感じました。
- 選択科目グループ別での発表は新しい試みだったと思いますが、縦割りで先輩後輩たくさんの仲間たちと一緒に楽しみ、協力して活動ができたことは、大変良い経験になったと思います。
- 始めに先生方のパフォーマンスのおかげで会場の空気がほぐれ、子供たちも発表がやりやすかったと思います。
- メリハリがなかったように思いました。
- 音声が届き取りにくい時があるので、スクリーンでテロップを入れるなど、もう少し音響や演出の工夫があるとありがたいです。